

新田地域づくり計画

～みんなで考え住みよい新田を創ろう!!～

平成25年度3月 作成
平成30年度3月 見直し

事業計画

課題 (テーマ)	基本的方向 (キーワード)	見直結果	計画内容	具体的な取り組みと課題
コミュニティ の充実	地域の安全	継続	危険箇所・避難箇所マップ作成 各箇所に判りやすく印を付ける	事故防止対策の実施、行政区に2枚配布（センター・区長） 問題が解消した箇所等について、年に1回の見直しを行う。
		△改善	地域安全パトロールの実施	防犯協会は奇数月・交通安全協会は偶数月 のようにパトロール計画を立て実行する
		△改善	地域活動による環境整備	除草作業
	生涯学習の充実	継続	学校との連携により体育祭・芸能祭・地域行事の実施 コミュニティスクールの推進	こども会育成会・小・中学校との連携 学校運営協議会の定例会議に参加をし情報交換。
		※新規	新田の神社仏閣調査実行委員を立ち上げと現地調査を実施	新田にある神社仏閣史跡を調査しマップの作成を行い、愛好会等の発足も考慮
		※新規	新田の名人発掘とそのまとめ	各行政区にて手に技を持っている方を見つけ、書き出す。
		継続	古き良き伝統芸能の継承とPR	山ノ神神楽、柳生心眼流、鹿踊の活躍の場を設ける。
		継続	各種団体への活動支援。	長生会・婦人会
	継続	地域の人との交流を深める	各イベントの開催	
	魅力ある 新田のPR	新田ブランドの確立	継続	玉葱栽培、もち米供給等の拡大
△改善			美味しい”新田のはっと”のPR	婦人会
植栽等推進活動		継続	スマイルサポーター（坂戸フラワー街道倶楽部） 水仙ロード（茂栗保全隊） 花いっぱい運動	交通量がある箇所に、花が植えてあり季節になると満開の花が目に入る。
ふるさとの再生	ゴミのない地域	△改善	ポイ捨て禁止の看板設置（鳥居）	全行政区に設置。その後の対応を検討
	新田地区で伝わってきた古き良き行事の継承	△改善	夏祭りの復活・盆踊り・秋祭り（各地区の取組）	

見直し結果

行動計画の状況確認	「新田地域づくり計画」を元にした事業について検討し、基本方針：13項目・活動案：45項目。45項目中取り組みができてきているものが8項目であり、内容の確認を行なうことが出来た。
評価と整理	行動計画内容について、地域づくり部会役員・行政区長に協力を頂き5段階評価を行った。評価結果を元に議論を行い、内容の整理を行なうことができた。削除出来る内容は削除し、コミュニティで出来る出来ないの判断や同じ内容については統一を図った。
見直した結果からの目標	計画当初の行動計画内容にコミュニティだけでは、困難で実行できずにいた内容が多くあり見直しとまとめることで、自分達で目標を立て事業を組み立てられるようになった。



【新田地区コミュニティ推進協議会 会長 星 昭男】

私達の登米市がまちづくりの発展を願って、平成24年4月に「登米市まちづくり基本条例」を制定しました。平成25年度より「地域づくり計画」の話を受け、どのような地域をつくれれば良いのか検討がつきませんでした。しかも「地域づくり計画」の策定期間は2年間であるとのことでしたので、特定非営利活動法人まちづくり政策フォーラム 足立千佳子先生の指導の下、役員で試行錯誤をしながら計画を作り上げました。

現在は、新田地区コミュニティ推進協議会で集落支援員を任用し、活動をして地域の方々に喜んでいただいております。平成30年度は安心・安全な地域を作るため、新たに新田地区の大きな地図を作り危険な箇所はどこか、またどのような策を立てたら安全な生活が出来るかを話し合いました。平成31年度は実際の現場を視察し役員と話し合いを重ね、住みよい魅力のあるすばらしい地域づくりをしようと思い頑張っているところです。



山ノ神神楽



佐沼鹿踊り



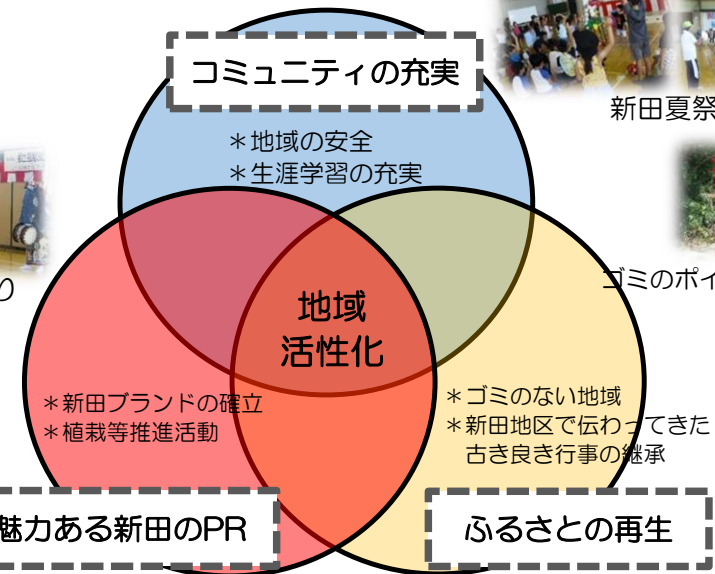
柳生心眼流兵法



新田夏祭り



ゴミのポイ捨て禁止看板



【地域づくり部会長 星 栄一】

当初の策定時には、地域の良いところを出し合って行動計画を作りましたが、あれから5年を過ぎ見直す時期が来ました。31年度から、新たに地域に合った計画を進めるために、30年度は計画の見直しを行い、内容の整理を行いました。

今後は、見直した結果を基に、地域の資源を生かした魅力ある地域づくりに取り組んでいきたいと思っております。

【登米市新田公民館 館長 大場 勸市】

地域づくりでは昔懐かしい伝統的なお祭りや遊びの復活や生活上の不具合の解消など多くの施策が考えられました。

自分達で達成できるものと行政へ依頼するものとに分類し、案件に着手している。平成30年度は、自分達が住んでいる地域を確認できるように地図の作成から始めました。

また、住民は地域の良さは分かっているが、価値を良くわからないのが現状である。失いつつある匠の技や伝統芸能、食と文化の継承について、これから調査を順次進めていき、最終的には冊子に残していきたい。

これからの地域づくりは良い所だけを発信して旅行者として人を呼ぶだけではなく、興味を持って来る滞在型も考えていかなければならないと思っております。

